

第 85 回クラシックを楽しむ会

2024 年 3 月 24 日(日)18:00～(2 時間 29 分)

タイトル : 歌劇「椿姫」(ヴェルディ)

会場等 : ヴェローナ野外劇場(イタリア)

2021 年 8 月 7・19 日

楽団等 : アレーナ・ディ・ヴェローナ管弦楽団

合唱 : アレーナ・ディ・ヴェローナ合唱団

指揮 : フランチェスコ・イヴァン・チャンパ

演出 : ミケーレ・オルチェーゼ

出演 : ソーニャ・ヨンチェバ : ヴィオレッタ

ヴィットリオ・グリゴロ : アルフレード

ジョルジュ・ペテアン : ジェルモン

クラリッサ・レオナルディ:フローラ 他



第 3 幕 ヴィオレッタに許しを請うアルフレード。二人は再会を喜ぶが…

物語のストーリー

高級娼婦ヴィオレッタと青年貴族アルフレードの純愛物語。誇り高きヴィオレッタが純情で一途なアルフレードの愛を受け入れる。

アルフレードの父ジェルモンが現れ、彼の娘のためにアルフレードと別れるよう懇願、ヴィオレッタは泣く泣く犠牲を承諾する。娼婦にもどったヴィオレッタに対して事情を知らないアルフレードは怒りと嫉妬に狂う。

胸の病が悪化し死の床に横たっているヴィオレッタに、アルフレードは許しを求め、ジェルモンは罪の大きさを後悔する。

過去の上映記録

今回の演目は 4 回目、8 年ぶりの上映。

第 1 回(2013 年 7 月) ミラノスカラ座、2007 年 7 月

アンジェラ・ゲオルギウ、ラモン・ヴァルガス、ロベルト・フロンターリ

第 11 回(2014 年 6 月) ザルツブルク音楽祭 s2005 年 8 月

アンナ・ネトレプユ、ロランド・ビリャソン、トマス・ハン普森

第 31 回(2016 年 4 月) グラインドボーン歌劇場 2014 年 8 月

ギマディエワ、ファビアーノ、クリストヤニス



第 86 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル: 喜歌劇「こうもり」(ヨハン・シュトラウス)

4 月 28 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

バイエルン国立歌劇場 2023 年 12 月上演。ウラディーミル・ユロフスキー指揮。バリー・コスキー演出。

出演: ゲオルク・ニグル、ディアナ・ダムラウ、アンドリュー・ワッツ、マルクス・ブリュック、カタリナ・コンラディ他

あらすじ

【時と場所】

1850 年頃のパリとその郊外

【登場人物】

【第 1 幕】 ヴィオレッタの家のサロン

社交界の名士が集まり華やかな宴が開かれる。この宴にやって来た田舎の青年貴族アルフレードは、求めに応じてヴィオレッタの美しさを讃え、皆と一緒に「乾杯の歌」を歌う。彼は以前からヴィオレッタに恋をしていて、二人きりになると彼女に愛を告白する。(ヴィオレッタとの二重唱「思い出の日から」) ヴィオレッタは娼婦である自分は本当の恋愛などに縁はないと思いつつもアルフレードの純粋な愛に葛藤、アリア「ああ、そは彼の人か～花より花へ」を歌う。

【第 2 幕】第 1 場 パリ郊外の二人が住む家

ヴィオレッタは社交界を離れ、パリ郊外の家でアルフレードと愛の生活を送る。アルフレードはアリア「燃える心を」でその幸福と喜びを歌う。ある日、アルフレードの留守中に、彼の父ジェルモンが訪ねてくる。ジェルモンは、ヴィオレッタの娼婦という過去が、娘(つまりアルフレードの妹)の縁談に差し障るため、息子と別れるようヴィオレッタに迫る。ヴィオレッタは自分の真実の愛を必死で訴えて断るが、ついに説得され「哀れな女が犠牲になり死んでいった伝えてください」と泣く泣く承知する。別れの置き手紙を読んだ何も知らないアルフレードは、彼女が裏切ったと誤解して激怒。再びジェルモンが現れ、アルフレードを正気に返らせるため、アリア「プロヴァンスの海と陸」を歌って故郷へ連れて帰ろうとする。しかしアルフレードは復讐心に燃え、ヴィオレッタを追いかけてパリへ行く。

【第 2 幕】第 2 場 パリ、高級娼婦フローラの家のサロン

ヴィオレッタはパリの社交界に戻り、かつてパトロンだったドゥフォール男爵に手を引かれて現れる。彼女を追ってきたアルフレードは、ヴィオレッタが男爵を愛していると苦しまぎれに言うのを聞いて逆上。彼は大勢の人前で彼女をひどく侮辱して悲しませる。

【第 3 幕】 パリ、ヴィオレッタの家の寝室

第 2 幕から 2 か月が経ち、ヴィオレッタの胸の病は重く死の床についている。ヴィオレッタはジェルモンから届いた手紙を読み始める。約束を守ってくれた感謝、アルフレードが決闘して男爵を負傷させた後、外国へ旅立っていたこと、真実を知った息子が謝罪にいくだろうと。ヴィオレッタは「もう遅すぎる」と嘆きアリア「さようなら、過ぎ去った日よ」を歌う。

間もなくアルフレードが駆けつけてきて許しを求め、2 人で再会を喜び二重唱「パリを離れて」を歌う。ジェルモンも到着し、ヴィオレッタを娘として迎えるために来たと言うが、ヴィオレッタのやつれた姿に罪の大きさを後悔する。ヴィオレッタは「アルフレードがつつましく清らかな女性と出会って結婚するなら、ぜひ自分の絵姿を渡し、天上であなた方の幸せを祈っている者からだと伝えて欲しい」とアリア「もしもつつましい乙女が」を歌い息を引き取る。

【名曲】

第 1 幕と第 3 幕の前に演奏される二つの「前奏曲」は単独でも演奏される名曲である。

第 1 幕の「乾杯の歌」、第 2 幕ジェルモンのアリア「プロヴァンスの海と陸」が特に有名。

上記に記載した、第 1 幕と第 3 幕のヴィオレッタのアリア、第 2 幕のアルフレードとジェルモンのアリア、各幕で歌われる二重唱などもみな名曲である。

第 2 幕第 2 場冒頭の「俺たちはマドリードの闘牛士」など歌と踊りも楽しい。

出演

ソーニャ・ヨンチェヴァ(1981 -)は、ブルガリア生まれのソプラノ歌手。2013年にメトロポリタン歌劇場に「リゴレット」のジルダ役でデビュー後、世界中の主要歌劇場で活躍中。

ヴィットリオ・グリゴーロ(1977 -)は、イタリア生まれのテノール歌手。過去10年間、オペラ界のスターの一人と評され、2019年2月にはニューヨーク・タイムズ紙に「オペラ界で最も頼りになるエキサイティングな歌手」と評された。2019年9月のロイヤルオペラハウス(ROH)「ファウスト」日本公演中、カーテンコールでの「不適切で攻撃的な行動」によりROHを降板。連鎖してメトロポリタン歌劇場(MET)でも「椿姫」アルフレード役を降板。なお、METではこの事件の直前、セクハラ疑惑でプラシド・ドミンゴが自主降板に追い込まれたばかり。

ジョルジュ・ペテアン(1976 -)は、ルーマニアのオペラ・バリトン歌手。バイエルン国立歌劇場、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場など世界有数の歌劇場にバリトンのタイトルロールで出演。

エリアナ・アンドレアウディはギリシャ国立歌劇場バレエ団のプリンシパル・ダンサー。2018年に国際的なキャリアをスタートさせた。本公演では第2幕終幕で登場する。



ヨンチョバ



グリゴーロ



ペテアン



アンドレアウディ

フランチェスコ・イヴァン・チャンパ(1982 -)はイタリアの指揮者。イタリア各地の歌劇場、音楽祭の他、パリ国立オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ座などで指揮。バイエルン国立歌劇場では音楽監督に就任。



チャンパ

(演出のミケーレ・オルチェーゼについての情報は見当たらなかった。)

「椿姫」は実在した

原作はフランスの劇作家・小説家アレクサンドル・デュマ・フィスの小説「椿姫」である。小説、戯曲ではマルグリットが娼婦の生活を捨て一途にアルマンを愛する純愛物語に仕立てているがこれは事実ではない。デュマ・フィスの願望を物語に仕立てたものである。

マルグリットのモデル

娼婦マルグリットは実在の女性、1824年生まれの通称マリー・デュプレシ、本名アルフォンシーヌ・プレシがモデルである。極めて不幸な少女時代の後、7人の富豪達から金を絞り取る才色兼備の高級娼婦になった。20歳で知り合ったデュマ・フィスと別れた後、死の前年22歳の時、時代の寵児フランツ・リストに熱を上げたが、不治の病、肺結核のため多額の借金を残して23歳で亡くなった。その死は大きく報道されて有力紙にも追悼記事が載った。

※マルグリットは歌劇ではヴィオレッタである。

マルグリットのパトロンモデル

上記富豪の内、薄幸の少女に教育を受けさせるなど知性を身に着けさせたギッシュ伯爵ともう一人、エドワール・ド・ペレゴ伯爵が原作の重要なモデルである。ペレゴ伯爵は銀行家の孫で、相続した莫大な遺産をデュプレシに入れあげて破産状態になった。請われるままにロンドンで「娼婦と貴族の正式な」結婚式を挙げデュプレシを「伯爵夫人」にした。デュプレシの死の前年のことである。デュプレシの「本当はフランツ・リストを愛している」の言葉に怒り裁判所に結婚の無効を申し立てて勝訴したが「元伯爵夫人」の虚名が残りデュプレシの使用する道具に伯爵の家紋が付いた。それでもデュプレシの死の直前に和解、その死に立会い、立派な墓を作り一生独身を通した。

※ペレゴ伯爵は小説ではG伯爵、歌劇ではドゥフォーール男爵である。

青年アルマンのモデル

デュマ・フィス自身が主要なモデルであるがペレゴ伯爵もモデルの一部になっている。歌劇の第1幕に相当する部分はほとんどデュマ・フィスの経験に基づいている。デュプレシが亡くなったとき、デュマ・フィスは父ペールと旅行中だったため、死に立ち会えなかったのも事実である。アルマンが墓を掘り返すところはペレゴ伯爵に相当する。

※アルマンは歌劇ではアルフレードである。



マリー・デュプレシの肖像



劇場のマリー・デュプレシ



マリー・デュプレシが住んでいたアパート(手前右の建物)。パリ8区マドレーヌ通りはマドレーヌ寺院とオペラ座ガルニエ宮の間